

「限界耐力計算等を用いた鋼構造建築物の性能設計例」

主催 JSCA 技術委員会 応答制御設計部会

1995 年の阪神淡路大震災の被災経験から、人命の保全に加えて財産の保全、機能の維持などの要求を満たす性能設計として、免震構造や制振構造が急速に普及しました。JSCA 応答制御設計部会ではこれらに対応すべく、免震構造、制振構造の総称として応答制御構造を採用し、これらを併せて取り扱うこととして 2000 年の「JSCA 応答制御構造設計法」刊行以来、応答制御構造の健全な発展と普及を目指して活動を行って参りました。

近年では、地震後の機能維持や継続使用を含めた性能設計が求められ、応答変形が明示できる評価法の重要性が高まっていますが、高さ 60m 以下の中低層建築物で一般に用いられる保有水平耐力計算では、重要度係数等による耐力向上は評価可能ですが、大地震時の応答変形評価は困難です。大地震時の応答変形を明示あるいは制御する方法として、建物に免震部材や制振部材を効果的に配した応答制御構造の採用が挙げられ、これにより大きな変形抑制が可能となります。しかし、その性能の確認は時刻歴応答解析が主流であり、中低層建築物では一般に時刻歴応答解析を用いない実状もあります。

そこで本講習会では、限界耐力計算（平 12 建告 1457 号）や免震告示（平 12 建告 2009 号）などの応答スペクトル法に基づく構造計算、エネルギーの釣合いに基づく耐震計算（平 17 国交告 631 号）に準じ、時刻歴応答解析によらない各計算法に対し、8 階建て鉄骨造事務所建築物を共通モデルとして、経験豊富な実務者から JSCA 性能設計を活用した設計例・計算例の紹介を行います。さらに、各計算法における課題や留意事項、横断的な比較評価を併せて示すことで、高さ 60m を超える超高層に限らず、告示計算を利用した応答制御構造の広い普及を目的としています。是非講習を受講して、みなさまの応答制御構造採用の一助となることを期待いたします。

記

日時：2026 年 10 月 30 日(金) 13:30～17:00（ログイン 13:15～）

会場：Zoom ウェビナーによるオンライン

プログラム 講師：JSCA 技術委員会 応答制御設計部会

司会・進行：白鳥 和希

13:30～13:50	はじめに・設計方針・保有水平耐力計算	荻野 雅士
13:50～14:35	エネルギー法による制振構造の構造計算	脇田 直弥
14:35～15:20	限界耐力計算による制振構造の構造計算	岩間 和博
15:20～15:35	休憩	
15:35～16:20	告示免震による免震構造の構造計算	青野 英志
16:20～16:40	各計算法による比較と性能評価	富澤 徹弥
16:40～16:55	質疑応答	
16:55～17:00	おわりに	富澤 徹弥

参加費：会員 1000 円，非会員 2000 円

定員：400 名（資料は参加申し込みされた方へ後日ダウンロード URL をお送りします。）

申込締切：2026 年 10 月 23 日(金)

構造士更新：JSCA 建築構造士登録更新のための評価点申請中

CPD 制度：建築 CPD 情報提供制度対象講習会申請中

申込方法：デジタルチケット購入形式（次頁）

ご自身の申込区分を確認の上、以下 URL または QR コードから、チケットを購入して下さい。
受講料の支払いは、電子チケット（Peatix）にてお手続き願います。また、お申込みの際、「Peatix」に登録する必要がありますので。あらかじめご了承ください。

<https://jsca-outou.peatix.com>



視聴に係る注意事項：配信動画について、以下の行為を禁止します。

- ①第三者に対して、動画視聴に必要な事項を提供すること。
- ②動画のダウンロード、録画・録音すること。

（※）Zoom の接続方法についてのご相談は JSCA 事務局ではお受けいたしかねます。

以下の Zoom ヘルプセンター等でご確認をお願いいたします。

Zoom ヘルプセンター <https://support.zoom.us/hc/ja>

Zoom テストサイト <https://zoom.us/test>

お問合せ：メールにて承ります。

（一社）日本建築構造技術者協会 事務局 e-mail : seminar@jsca.or.jp